

AKI TA KOI CHI

Special Interview

連載100回記念
スペシャルインタビュー

「サッカーを通じて人間を育てたい」



FORZA駒澤、数々のインタビューをしてまいりましたがついこの方の登場。そう、駒澤大学サッカー部・秋田浩一監督。「監督がいなくなったら駒大が駒大でなくなってしまう」と卒業生が言うほどその存在感は絶大。駒大の魂といって過言ではない秋田監督。「私は現場が好きなんだ。選手に教えるのが好きなんだ」という指導論から、近年の駒大、大学サッカーなどについて語ってもらいました。そして監督の夢とは…。秋田監督の素顔にせまっていきたい！

(インタビュー・内田浩嗣、永峰綾、カメラ・岩田陽一)

駒大の近年の成績は出来すぎですよ(笑)

いきなりですが現在の駒大の状況は？インカレに向けていい準備が出来ていますか？

秋田 まあ、いいんじゃないですか(笑)。リーグ戦とれなかったことで4年生はかけるものがあるし、チーム状態自体は上向いています。

調子の上がってきてる選手なんかいますか？

秋田 みんな、いいんじゃないですか？原なんかも良くなってきたし石井晃一、笹岡新伍(共に3年)なんかもすごくいい。中後、小林亮なんか調子が悪かったんですけどここにきて調子が上がってきている。全体的にはいいと思います。

今年、ここまで総理大臣杯3連覇、リーグ戦3位という成績ですがそれについて？

秋田 リーグ戦は5しか離れてなかったんで内心、チャンスはあると思ってたんですけど勝負どころで勝ちきれませんでした。12節の流経大戦で残り5分まで勝っていたんだから、勝てれば優勝してたかもしれないし(駒大はこの試合、残り5分までリードしていたが逆転を許してしまいリーグ優勝が苦しくなった)。ただ、そこで負けてしまったってことはまだまだ弱いということです。

今回はFORZA 100号記念ということとなのですがここ最近で思い出深い試合などありますか？

秋田 うーん、まずはこれ(FORZA)が出る前なんですけど2000年のリーグ戦最終節・筑波大に2・0で勝った試合

です(駒大はその試合に勝たないと2部降格となってしまふところだった)。その試合が一番思い出に残っています。やっぱり、そこからみんな変わっていったし。

それに次の年だと東学大と平塚で3・3の試合をしたこと。最後に伊が逆転ゴールを打ったんですけどその直後に同点にされた試合だったんですけどクラマーが『残心』という言葉を使ったのを知っていますか？クラマーが日本人に「日本にはいい言葉があるじゃないか」と。日本の侍は刺した後でも襲われることがあるから心を残して後からかかって来られてもやられないようにするというのが日本人の心だと言ったんです。しかし、うちは逆転したことで調子に乗って同点にされた。そういう心が足りなかった。それを徹底させられた俺の力量が足りなくて、選手に強要したり怒ったりするだけ

じゃなく自分が、俺がかわらなきやチームも変わらないと思っただ瞬間ですね。ここ3、4年で駒大は数々のタイトルをとっています。それがそれについてはどうですか？

秋田 出来すぎですよ(笑)。うちは法政、国士、筑波みたいがいい選手はきてないけど選手が努力をしている。駒大に入ればしっかりした選手を誰も「いい選手」とは言わないですよ。深井、巻なんかにしてもそう。中田、橋本なんて知らなかったでしょ？その結果いい意味で競争が激しかったり、勝つということ、チームを思うということが一緒に上手く進行している。チームのために頑張るといふ奴が勝負も勝つという結果が出ている。人間として重要な『チームのため』という気持ちとスポーツマンとしての『勝負に勝つ』ということがバランスよく出来ている。人間としても選手としても成長する、それが大切なことです。

ジュビロ戦なんかはどうでしょう？

秋田 あ、あの試合は選手が駒大のサッカーは「これだ！」ということが確認できた試合だと思います。あれから文句を言う人がいなくなった。たしかにあの試合、深井は凄く出たけど、あの選手も持っている力をすべて出して戦ってなおかつ同点にした。そのことがちよっとだけ選手たちを成長させた。駒大の方向性を決めた試合だったと思います。

リーグ初優勝という歴史的なこともありましたか？

秋田 あれは本当に嬉しかった。僕が(選手として)はいった昭和49年からそのころだけを目標にして頑張ってきたから。でも、それまでの過程で何が大事かということも学べた。「信じる」と、「一生懸命やること」など。

サッカーを通じて人間も育てる、それが信念

では話は変わって監督の原点を聞いていきたいと思うのですが、監督は指導者になろうとしたきっかけはなんだったんですか？

秋田 僕の恩師・助川和夫(日本サッカー